

タイトル	複合動詞の使用場面におけるジャンル差の分析 - BCCWJ とCEJC を用いた書き言葉・話し言葉の比較 -
著者	南, 明世; MINAMI, Akiyo
引用	北海学園大学人文論集(80): 73-88
発行日	2026-03-31

# 複合動詞の使用場面におけるジャンル差の分析 — BCCWJ と CEJC を用いた書き言葉・話し言葉の比較 —

南 明 世

## 1. はじめに

日本語における複合動詞は、「話し始める」「書き終える」「書き上げる」のように、二つ以上の動詞が結合することによって形成され、動作の開始・完了・方向性などを簡潔に表す表現形式である。複合動詞は、日本語の語彙・文法体系において重要な位置を占めており、その使用頻度の高さも指摘されてきた。森田（1994）は、『例解国語辞典』に基づく調査から、日常的に使用される動詞の39.29%に当たる1,817語が複合動詞である<sup>1</sup>と述べており、単純動詞が2,083語（45.07%）であることと比較しても、複合動詞が日本語において極めて一般的な語彙であることを示している。このように高頻度で用いられる複合動詞であるが、その一方で、日本語には「話し始める」に対する「話すことを始める」、「書き終える」に対する「書くのを終える」のように、複合動詞を用いなくても意味的にほぼ同等の内容を表すことができる表現が存在する。すなわち、複合動詞の使用は文法的に必須というわけではなく、話者・書き手が使用場面や目的に応じて選択

---

<sup>1</sup> 森田（1994）は動詞+動詞（呆れ返る、明け放す、など）と動詞的造語成分や接尾辞を複合したもの（当てこむ、洗い立てる、など）を複合動詞（1）とし、その他、サ変複合動詞（愛する、早退する、など）と名詞・形容詞語幹・形容動詞語幹・接頭辞に動詞の伴うもの、動詞的造語成分・動詞的接尾辞や、動詞的造語成分・動詞的接尾辞の伴うもの（相成る、青ざめる、など）を複合動詞（2）としている。ここでいう複合動詞とは（1）を指す。なお、（2）は573語、12.4%を占めている。

している表現であると考えられる。

この点は、日本語教育の観点からも重要である。日本語学習者は、複合動詞を十分に習得していない段階においても、「～ことを始める」「～のを終える」といった迂言的な表現を用いることで意思伝達を行うことが可能である。そのため、学習者が複合動詞の使用を回避すること自体は、必ずしも誤用とは言えない。しかし、森田(1994)が指摘するように、複合動詞が日常的に高い頻度で用いられていること、「書き上げる」など複合動詞でしか表せない表現があることから、複合動詞の習得は必須である。にもかかわらず、どのようなジャンルや使用場面で複合動詞が選択されやすいのかが明らかでなければ、学習者に対して複合動詞を「いつ・どのような場面で使うべきか」を適切に指導することは難しい。

言語表現の選択は、文法的制約のみならず、話し言葉か書き言葉かといった媒体の違いや、ジャンル、場面、目的などの要因によって大きく左右される。特に複合動詞は、簡潔性や情報の圧縮といった機能を担う一方で、理解や産出の負担が大きい表現でもあるため、その使用にはジャンル差や使用場面による偏りが生じる可能性が高いと考えられる。

そこで本研究では、国立国語研究所の現代書き言葉均衡コーパス(以下、BCCWJ)と日本語日常会話コーパス(以下、CEJC)を用い、複合動詞の使用頻度や分布をジャンル別に分析し、複合動詞がどのような使用場面で選択されやすいのかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究

複合動詞がどのような場面で使用されやすいかについては、村田・山崎(2012)、村田(2013, 2015, 2016)の一連の研究がある。村田・山崎(2012)、村田(2013, 2015, 2016)は姫野(1999)を参照にした22の後項動詞<sup>2</sup>を文章のジャンル判断の指標となり得るとし、BCCWJを使用し、自然科学系書籍、社会科学系書籍、文学書籍について調査を行なっている。その結果、どのジャンルでも無数の異なる複合動詞が用いられているのではなく、限

られた数の複合動詞が繰り返し用いられていることを指摘している。特に延べ語数の観点から文学の使用が多いと述べているが、BCCWJで扱われているデータはそもそも文学が多いため、はっきりと文学での使用が多いとは断言できない。また、村田（2022）では、先の22の後項動詞を指標として、筆者が教育現場で使用した教材を中心に収集した、合計379編（論文：物理・工学・文学・経済、新聞社説、文学作品：近現代）の小規模コーパスを使用しどのようなジャンルでどのような複合動詞が使用されているかを調査している。その結果、論文では、「あげる」と「たつ」の使用が際立って多く、文学作品では、「だす」の使用が特に目立ち、次いで「あがる」「かける」「つける」などが多く使われていること、新聞社説では際立って高い語はないものの、相対的に「こむ」「きる」「なおす」「いれる」の使用率が高くなっているなど、各ジャンル別に複合動詞の使用の差があることを指摘している。ただし、これらはいくまでも22の後項動詞についてのみ対象としているため、複合動詞全体としてどのようなジャンルで使用が多いのかについて改めて分析する必要がある。

その他、科学技術専門書を中心に、どのような複合動詞を使用しているか分析したものに入戸野・武田（2009）がある。入戸野・武田（2009）の調査対象は『化学工学論文集』（科学技術専門書）、『岩波ブックレット』、『日本語教育のための合成語のデータベース構築とその分析』である。定量的な分析の結果、〈化工〉（科学技術分野）は他の資料と比較して、複合動詞の組み合わせの幅が狭く、特定の語が繰り返し使用される傾向が顕著であり、専門分野においては限られた複合動詞を重点的に学習することの効率性が示唆されている。また、専門分野特有の性質として、人ではなく事柄

---

<sup>2</sup> 村田・山崎（2012）、村田（2013, 2015, 2016）では、次の後項動詞を取り上げている。

あう・あがる・あげる・あわせる・いる・いれる・かかる・かける・きる・こむ・こめる・だす・たつ・たてる・つく・つける・でる・とおす・なおす・なおる・ぬく・まくる。

に視点を置く「物主語」の記述様式が支配的であり、それに伴い受身形や中立的な意味を持つ複合動詞が多用されるという客観性の高い記述構造を明らかにしている。

以上、先行研究では、ジャンルごとに多用される複合動詞の種類や頻度差は明らかにされ、より専門的な書籍での使用が多いことは示唆されているものの、限定された複合動詞に限られており、縦断的なジャンルの違いについては詳細に明らかになっていない。そこで、本研究では、BCCWJとCEJCを用いて、特定の後項動詞に限定することなく、複合動詞全体の使用状況をジャンル別に分析し、複合動詞がどのような使用場面で選択されやすいのかを明らかにすることを目的とする。

### 3. 書き言葉 (BCCWJ)

#### 3.1 調査方法

まず、書き言葉としてコーパス検索アプリケーションである中納言を用い、BCCWJの検索を行った。BCCWJは現代日本語の書き言葉を対象として、ジャンルの偏りが生じないよう体系的に収集・構築された大規模コーパスである。新聞、書籍、雑誌、白書、ウェブテキストなど、複数のレジスターからデータが収集されており、日本語の語彙・文法・表現の使用実態を客観的に分析するためのコーパスとして広く利用されている。本研究では、書き言葉としてどのくらい複合動詞が使用されているのかをジャンル別で見るのに、BCCWJを使用することにする。検索条件は以下の通りである。

短単位検索 キー : 「品詞—大分類—動詞」

前方共起 1 : 「品詞—大分類—動詞」

コアのデータがあるものはコア<sup>3</sup>のデータで、ないものは非コアのデータで検索したところ、22,797件の用例が見られた。このうち、「V 得る」

といった補助動詞や、「お～いたす」「～します」のような敬語表現、「～より V」のような助詞、「行く行く」のような重複を目視で排除した、5,451語を対象とする。

### 3.2 結果・考察

まず、レジスター別の出現数を次の表1に示す。なお、それぞれのレジスターごとに語数が異なるため、100万語あたりの調整頻度（pmw<sup>4</sup>）で比較する。

表 1. レジスター別複合動詞の出現頻度

レジスター	出現数	pmw
出版・雑誌	219	1083
出版・書籍	238	1166
出版・新聞	207	671
特定目的・ブログ	76	819
特定目的・韻文	1772	7866
特定目的・教科書	591	637
特定目的・広報紙	1080	288
特定目的・国会会議録	995	195
特定目的・知恵袋	70	745
特定目的・白書	41	208
特定目的・法律	162	150

表1を見ると、韻文での複合動詞の使用が最も多く、次に雑誌・書籍、

<sup>3</sup> BCCWJの形態素情報は基本的に自動付与されているが、BCCWJ全体の約100分の1の量に相当する約110万語については、人手により解析精度を高めている。このデータをコアデータと呼ぶ。なお、コアデータがあるレジスターは出版書籍、雑誌、新聞、白書、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログであり、本研究ではその他、特定目的の法律、国会会議録、広報紙、教科書、韻文は非コアデータを使用した。

<sup>4</sup> 100万語あたりの調整頻度（per million words）は、語の出現回数（粗品度）を総語数で割り、100万を乗じて算出した。

ブログ・知恵袋でよく使用されていることがわかる。まず、韻文について考察する。韻文には『増補版現代短歌全集』の短歌や『増補現代俳句大系』の俳句などが含まれる。具体的には(1)のように古語の形式も多い。

- (1) 鴉の天にて電線の襤褸古ぶ 蟻螂の身ながらに枯れ急ぐなり  
(OV1X\_00061, 2350 鷹羽狩行『増補現代俳句大系第13巻』)

古語形式の俳句などにおいては、「見やる」「枯れ残る」「乱れ落つ」など、現代ではあまり使用しない複合動詞も多用されており、現代詩においてもこのような語形成の感覚が継承されていると考えられる。

また、詩は出来事を客観的に伝達することよりも、情景や感情、時間的な広がりや凝縮して表現することを目的とするジャンルである。(2)「溢れはじめる」のような複合動詞は、動作の開始・継続・完了や方向性、主体の心理的变化などを一語で表すことができるため、限られた語数の中で多層的な意味を表現する詩的表現と相性が良いと思われる。

- (2) 空がやがて世界へのことづてで溢れはじめる前ばらまかれた星々  
をつらぬいて  
(OV2X\_00006, 1690 関口篤『関口篤詩集』)

次の表2は韻文における後項動詞の出現の多い順に上位10語を並べたものである。特に「行く」「来る」「出す」などの移動動詞や、「始める」「続ける」「切る」「尽くす」などの時間や行為の完了を表す複合動詞が上位にきている。このことから、韻文では短い文で状況を詳細に説明する必要があるため、複合動詞を使用しやすいのだと言える。

表 2. 韻文の後項動詞別出現数(上位 10) (延べ語数:1,772 語, 異なり語数:412 語)

順位	後項動詞	出現数	割合
1	行く	247	13. 94%
2	来る	145	8. 18%
3	始める	69	3. 89%
4	続ける	56	3. 16%
々	出す	56	3. 16%
6	来たる	46	2. 60%
7	切る	39	2. 20%
8	尽くす	36	2. 03%
9	合う	26	1. 47%
10	渡る	25	1. 41%
々	繰る	25	1. 41%

次に、雑誌・書籍について見てみる。次の表 3 は雑誌のジャンル別、表 4 は書籍のジャンル別複合動詞の出現数である。

表 3. 雑誌のジャンル別複合動詞の出現数

ジャンル	出現数	pmw
教育・学芸	29	1570
工業	26	1029
政治・経済・商業	3	374
総合（スポーツ・レジャー）	15	772
総合（一般）	123	1331
総合（家庭・娯楽）	6	358
総合（マスコミ）	17	975
厚生・医療	0	0
産業	0	0

表 4. 書籍のジャンル別複合動詞の出現数

ジャンル	出現数	pmw
0 総記	3	403
1 哲学	16	1720
2 歴史	39	1958
3 社会	50	1039
4 自然	12	693
5 技術	33	1537
6 産業	9	1028
7 芸術	9	786
8 言語	2	542
9 文学	60	1377
分類なし	5	385

表 3 の雑誌では教育・学芸、総合（一般）、工業の順に多く、表 4 の書籍では歴史、哲学、技術の順に多く見られた。雑誌の教育・文芸、総合（一般）とは（3）や（4）のような評論などが多く、工業も（5）のようなやや専門的な評論文が多い。

- (3) 批評家の「政治」, その効験, 成果の情けないばかりの貧寒さよ  
と言い出すなら, あちらこちらから, 烈しい反撥, 非難の声が上  
げられ…

(PM42\_00026, 20670 佐伯彰一『文學界(平成16年5月号)』)

- (4) 日本でも従来の病院の概念を覆すような病院らしくない病院がで  
き始めている。次の特集では, 具体的な取り組みを紹介したい。

(PM11\_00322, 30620 長野宏美『サンデー毎日』2001年6月17日号)

- (5) 現実路線の米国, 先を行き過ぎる日本。このように米国のモバイ  
ルデータサービスは広がっているが…

(PM25\_00067, 105260 海部美知『iINTERNET magazine』2002年2月号)

これらはやや専門的なものであり, 先行研究でも言われているように,  
専門分野で複合動詞は使用されやすく, 説明を簡潔にまとめる手段として  
有効であるといえよう。

この傾向は表4の書籍のジャンルからも窺われる。歴史や哲学, 技術な  
ど専門的な分野での複合動詞の使用が多くみられている。ただし, 書籍に  
ついては文学でも比較的多く出現している。では, 専門的な書物と文学と  
複合動詞の使い方によどのような違いがあるのだろうか。具体的な後項動詞  
を比較すると, 表5, 表6になる。表5は書籍で最も多く出現した「歴史」  
で, 表6は「文学」でそれぞれ出現した複合動詞の後項動詞を示したもの  
である。

表 5. 「歴史」 で出現する複合動詞  
 (延べ語数：39 語, 異なり語数：13 語)

後項動詞	出現数	割合
続ける	10	25. 64%
出す	7	17. 95%
始める	7	17. 95%
合う	3	7. 69%
尽くす	2	5. 13%
果てる	2	5. 13%
終わる	2	5. 13%
響く	1	2. 56%
抜く	1	2. 56%
込む	1	2. 56%
助ける	1	2. 56%
回す	1	2. 56%
掛ける	1	2. 56%

表 6. 「文学」 で出現する複合動詞  
 (延べ語数：60 語, 異なり語数：16 語)

後項動詞	出現数	割合
出す	18	30. 00%
始める	10	16. 67%
続ける	8	13. 33%
切る	3	5. 00%
尽くす	3	5. 00%
過ぎる	3	5. 00%
終わる	3	5. 00%
合う	2	3. 33%
そびれる	2	3. 33%
終わる	2	3. 33%
渡る	1	1. 67%
忘れる	1	1. 67%
込む	1	1. 67%
果てる	1	1. 67%
慣れる	1	1. 67%
上る	1	1. 67%

両者に共通するのは「続ける, 出す, 始める, 尽くす, 終わる, 合う, 込む, 果てる」であり, これらはいずれも動作の開始や継続, 完了など, 出来事の時間的・意味的展開を表す機能を持つ。後項動詞として用いられることで, 行為の方向性や程度の強さ, 状態の深まりを付加する働きを持つ。この点において, 両ジャンルとも, 意味を精緻化するために複合動詞を積極的に用いていると言える。

その他, 「歴史」で使用されているのは, 「響く, 回す, 助ける, 掛ける, 抜く」などがあり, これは個人の感情よりも, 出来事同士の因果関係や影響関係を描写するために, こうした後項動詞が選択されやすいと考えられる。一方, 「書籍」は「そびれる, 忘れる, 慣れる, 過ぎる, 上る, 渡る, 切る」などがあり, 特に「そびれる」「忘れる」は, 行為の結果だけでなく, 主体の内面や評価を伴う表現であり, 人物の感情や心的状態を描写する「文学」の特徴だと言える。

最後にブログや知恵袋といった, 書き言葉ではあるものの, 話し言葉の

要素も多く含む打ち言葉について見てみる。表7は「ブログ・知恵袋」で出現した後項動詞の上位10である。

表7.「ブログ・知恵袋」で出現する複合動詞  
(延べ語数：146語, 異なり語数：34語)

順位	後項動詞	出現数	割合
1	過ぎる	23	15.75%
2	始める	16	10.96%
々	続ける	16	10.96%
々	出す	16	10.96%
5	切る	13	8.90%
6	捲る	11	7.53%
7	終わる	6	4.11%
々	尽くす	6	4.11%
9	直す	4	2.74%
10	読む	3	2.05%
々	慣れる	3	2.05%

先に見た「韻文」や「雑誌」「書籍」と同様に「始める」「出す」「続ける」といった時間の経過を表す表現が共通して多く見られる。これらは一般的にどのジャンルでもよく使用される複合動詞であると言える。「ブログ・知恵袋」で特徴的なのは「書籍」の文学でも見られた、「過ぎる」「切る」「尽くす」が多い点である。この複合動詞は(6)のように程度が過剰であることを判断したり、(7)のように完全にその行為を達成することができないなど、評価的・主観的意味を含んでいる。

- (6) サーモンのカルパッチョ。結構豪華なかんじで。すこし食べ過ぎたかも…でもまあトマトとかが多かったわけだし…うん。

(OY14\_13636, 11790 Yahoo! ブログ)

- (7) 車が一旦停止をせずに出てきて、見えたところでもう避けきれませんでした。

(OC06\_00326, 1210 Yahoo! 知恵袋)

その他、「直す」や「慣れる」など主体の心理変化を表す動詞は、失敗談や悩みを相談する知恵袋、ブログならではだと言える。

以上、BCCWJのレジスター、ジャンル別複合動詞の使用傾向を見た。その結果、レジスター別では、韻文に最も多く使用され、次に雑誌・書籍、ブログ・知恵袋での順で使用が見られた。俳句や短歌は限られた語数の中で多層的な意味を表現しなければならない。このような詩的表現において、複合動詞は相性が良いことが分かった。特に移動を表す後項動詞が多いのも特徴だと言える。更に、先行研究で言われていたように、雑誌や書籍では評論など専門的なジャンルでの使用が比較的多く見られた。具体的な複合動詞の使用傾向は、「始める」や「続ける」など行為の経過を表す表現が共通してみられたものの、歴史などの評論では出来事同士の因果関係や影響関係を描写する複合動詞が、韻文や書籍の文学などでは評価的・主観的意味を持つものや主体の心理的变化を表す複合動詞が見られ、それぞれ各ジャンルの特徴を表す結果となった。

## 4. 話し言葉コーパス（CEJC）

### 4.1 調査方法

次に、話し言葉での複合動詞の使用ジャンルについて見ていく。本研究では話し言葉コーパスとして中納言を用いて、CEJCの検索を行った。CEJCは現代日本語の日常会話を対象として収集・構築されたコーパスであり、行動調査を行った上で、普段行っている友人同士や家族間など、自然な会話場面における日本語の使用実態を記録している。BCCWJと同じく中納言で検索ができるため、BCCWJと比較しつつ話し言葉の実態を掴むコーパスとして最適である。検索方法はBCCWJと同様であり、雑談、用談・相談、会議・会合のコアデータを対象とした。その結果477件抽出されたが、今回はBCCWJ同様、複合動詞ではないものを削除した93例を対象とする。

## 4.2 結果・考察

まず、会話形式別の複合動詞の出現率を表8に示す。

表8. 会話形式別複合動詞出現率

形式	語数	pmw
会議・会合	11	317
雑談	59	365
用談・相談	23	407

表8から用談・相談、雑談、会議・会合の順で複合動詞の出現は多いものの、pmwを比較するとどの会話形式でも特に顕著な差は見られなかった。書き言葉に関する先行研究では、専門的な分野での複合動詞の使用が多いと言われているため、会議・会合といった正式な場面の方が複合動詞の使用が多いと予想したが、今回の調査では最も少なかった。そもそも、書き言葉に比べ話し言葉はデータ数が少なく、今回も複合動詞の出現が93件と少なかったため、データ数の少なさも影響している可能性がある。

次に、それぞれの形式別でどのような後項動詞が使用されているかを表9～11に示す。

表9. 会議・会合で出現する複合動詞

後項動詞	出現数
合う	3
渡る	2
過ぎる	1
切れる	1
終わる	1
忘れる	1
熟す	1
切る	1

表10. 雑談で出現する複合動詞

後項動詞	出現数
出す	13
始める	11
過ぎる	9
切る	5
切れる	3
行く	3
終わる	3
続ける	2
忘れる	2
掛かる	1
渡る	1
寄せる	1
掛ける	1
着く	1
合う	1
捲る	1
尽くす	1

表11. 用談・相談で出現する複合動詞

後項動詞	出現数
過ぎる	6
始める	4
行く	3
切る	2
終わる	2
送る	1
捲る	1
続く	1
着く	1
切れる	1
出す	1

まず、表9～11より、3つの形式すべてで、「始める、過ぎる、切る、終わる」など行為の区切りや程度を示す後項動詞が見られる。これは話し言葉の時とも共通しているもので、複合動詞は出来事の進行や整理を示す手段として広く使用されていることがわかる。

次に、それぞれの会話形式別に見ていく。表9の会議・会合では出現数も少なく、異なり語数も少ない。「合う、渡る、終わる、切る、忘れる」など、出現数がいずれも少数にとどまっている。感情や評価を伴う表現は避けられ、複合動詞の使用自体が抑制される傾向があると考えられる。一方、表10の雑談は異なり語数が最も多く見られた。雑談は、自由度が高く、様々な個人の経験を語る場面であるため、複合動詞が感情や評価を表す語彙資源として積極的に用いられていることが分かる。表11の用談・相談は最も出現率は高いものの、あまり特徴的な語がなく会議・会合、雑談の中間に位置する形式だと言えよう。

以上の結果から、複合動詞の使用は話し言葉の形式において、概ね同じような出現傾向であり、一部、会話場面の性格に応じて量的・質的に異なることが明らかとなった。特に、自由度の高い雑談では複合動詞が感情や評価を表す表現資源として多用される一方、会議・会合では使用が抑制され、制度的・形式的な表現に限定される傾向が見られた。

## 5. まとめ

最後に、書き言葉と話し言葉を比較する。表12は今回調査したBCCWJとCEJCの複合動詞の出現率をpmwで比較したものである。

表 12. BCCWJ と CEJC における複合動詞出現数

	粗品度	pmw
書き言葉 (BCCWJ)	5451	447
話し言葉 (CEJC)	93	368

表12のpmwを見ると、極端な差はないものの、話し言葉よりも書き言葉において複合動詞が比較的多く使用される傾向が確認された。このことから、複合動詞は書き言葉において、情報の圧縮や論理的な記述を支える表現手段として重要な役割を果たしていると考えられる。一方で、CEJCにおいても一定の出現頻度が認められたことから、複合動詞は書き言葉特有の表現ではなく、日常会話においても多く使用される語彙資源であることが示された。さらに、後項動詞の比較から、書き言葉でも話し言葉でも、「始める、過ぎる、続ける」のような行為の経過を表す複合動詞の使用が多く見られた。この点は、先行研究でも言われているように、限られた数の複合動詞が繰り返し用いられていると言える。ただし、書き言葉において、歴史などの評論では出来事同士の因果関係や影響関係を描写する複合動詞が見られたり、韻文や書籍の文学などでは評価的・主観的意味を持つものや主体の心理的变化を表すものが見られたりと、各ジャンルの特徴を表す結果となった。特に、韻文で複合動詞の使用が多く見られたのは、複合動詞の状況を短く、詳細に説明できる特性と相性が良いからだと思われる。特に、古語の表現でも多く見られたことから、今後は通時的に複合動詞の語彙数、使用がどのように変化してきているのかについてもみる必要があるだろう。

会話形式別の分析からは、複合動詞の使用は共通点も多いが、場面の性格によって一部、量的・質的に異なる点があることが明らかとなった。特に雑談では、体験や評価、感情を表す後項動詞が多く、多様な複合動詞が用いられる傾向が見られた。一方、会議・会合では、複合動詞の使用が全体的に抑制され、制度的・形式的な意味機能を持つ後項動詞に限定される傾向が確認された。また、用談・相談では、雑談と会議・会合の中間的な特徴を示し、問題の整理や判断に関わる後項動詞が相対的に多く用いられていた。

これらの結果から、複合動詞の使用は単なる語彙的選択である場合もあるが、ジャンルや使用場面に応じた機能的選択であることが示唆される。複合動詞は、出来事の時間的展開や評価、論理構築といった多様な機能を

担う表現形式であり、常に使用されやすい複合動詞はあるものの、その使用は媒体や場面の性格に一部依存していると考えられる。

本研究は、特定の後項動詞に限定せず、複合動詞全体の使用傾向を分析した点に特徴があり、先行研究で指摘されてきたジャンル差を、使用場面という観点から再検討するものである。ただし、話し言葉コーパスのデータが少なく、書き言葉と比較すると大きな差が出てしまっている。今後はデータを増やし、量的に分析していきたい。また、今回、検索条件を「動詞＋動詞」で行ったが、一語化された複合動詞などは単純動詞として登録されている場合がある。今回は、複合動詞として調査したため、一語化されたものに関しては見られていない。しかし、一語化した複合動詞も日本語学習者にとっては複合動詞として捉えている場合が多いため、より対象語を増やす必要があるだろう。今後は、更に複合動詞の意味分類や学習者データとの比較を通じて、複合動詞の使用選択がどのように習得されるのかを明らかにすることで、学習者の複合動詞の使用回避について明らかにしていきたい。日本語教育におけるジャンル別・場面別の語彙指導を検討する上でも有用であると考えられる。

本研究は JSPS 科研費 JP24K16107 の助成を受けたものである。

### 参考文献

- 入野野修, 武田明子 (2009) 「科学技術専門書に常用される複合動詞の調査分析」『福島大学地域創造』21, (1), pp. 128-147, 福島大学地域創造支援センター
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』, 研究社
- 村田年, 山崎誠 (2012) 「自然科学系書籍における複合動詞の使用傾向——後項動詞を指標として——」『日本語と日本語教育』40, pp. 83-112, 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 村田年 (2013) 「社会科学系書籍における複合動詞の使用傾向——後項動詞を指標として——」『日本語と日本語教育』41, pp. 67-95, 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター

- 村田年 (2015) 「文学書籍における複合動詞の使用傾向——後項動詞を指標として——」『日本語と日本語教育』43, pp.61-80, 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 村田年 (2016) 「BCCWJ を用いた複合動詞使用頻度調査票の改訂：22 後項動詞を指標として」『日本語と日本語教育』44, pp. 115-131, 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 村田年 (2022) 「ジャンルによって異なる複合動詞の種類——小規模コーパスと22 後項動詞を用いた軽量分析——」『日本語と日本語教育』50, pp. 101-114, 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 森田良行 (1994) 『動詞の意味論的文法研究』明治書院

### 使用データ

- 『現代書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』データバージョン 形態論情報 2021.03, 分類語彙表情報 2025.03, 国立国語研究所, <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>
- 『日本語日常会話コーパス (CEJC)』ver. 2023.03, 国立国語研究所, <https://chunagon.ninjal.ac.jp/cejc/search>
- 「中納言」バージョン 2.7.2, 国立国語研究所,
- BCCWJ 短単位語彙表 (Version 1.1), 国立国語研究所, <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/bcc-chu.html>
- CEJC 語数表\_品詞構成表\_語種構成表\_ver202209, 国立国語研究所, <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc/cejc-wc.html>